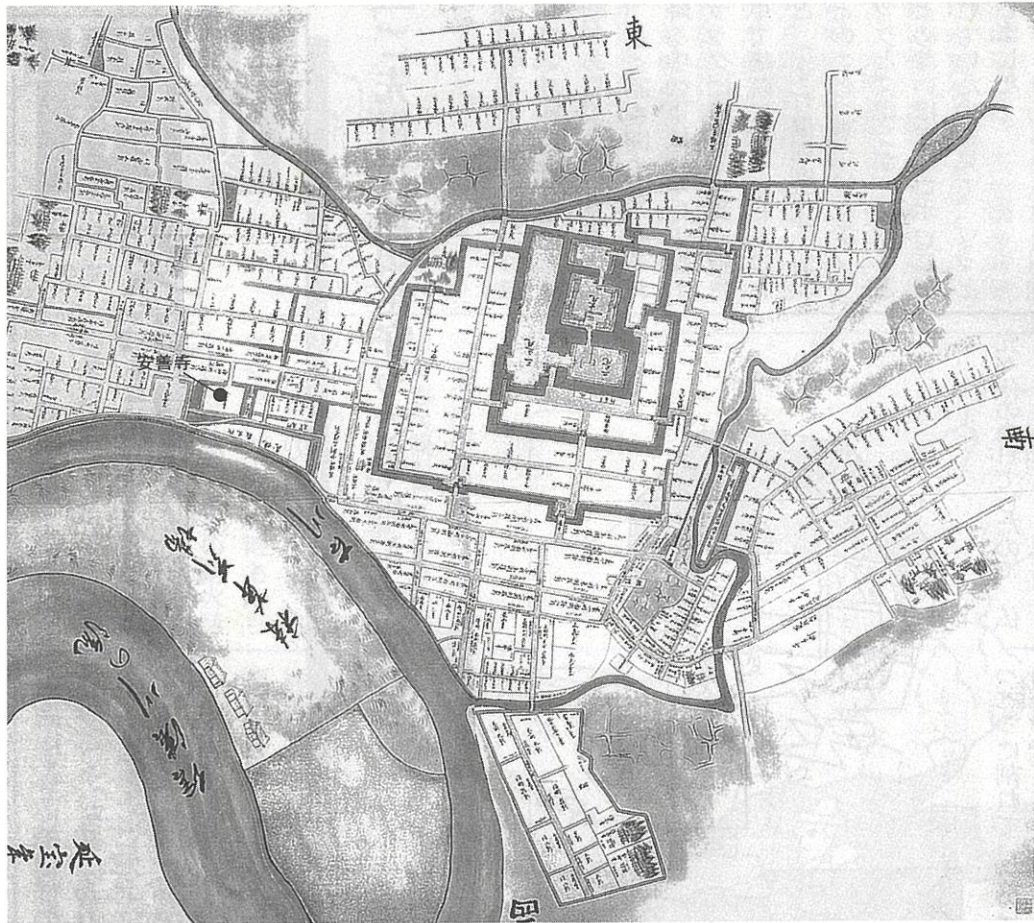


蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆
近藤龍弘

〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番地10
TEL.(0258) 32-2811

◆スタッフ◆
安藤一夫 小林国二 小林善秋 高橋潔
佐藤正樹 近藤マリ子 近藤善信
印刷・(株)北越時報社



江戸時代の長岡市の地図

ご家族の皆様でご覧ください

無駄な人生はない

翠巖龍弘

百草頭上無邊春
信手拈來用得親
(百草頭上、無辺の春。
手に信せ拈じ来てつて用い得て親し。)

「多くの草木が萌え出て、無辺の春光が輝いて春が現れている。それぞれの生命を謳歌している姿が永遠の春。無限の春が一体くの草花の上に現れてくる。その百草を手あたり次第にとつて眺めても、すべて親しきもので、差別なく、序列をつけるべきものではないということだ。」

右の名句は『従容録』の第四則、世尊指地の頌の最初の句です。従容録とは、曹洞門中興の祖と仰がれる、宋の時代の天童宏智正覚禪師が、昔から伝わる話の中から百則選びだし、それに頌という短評をつけ、「宏智頌古百則」という書物を作りました。その後万松行秀禪師が従容庵という庵で、示衆と評唱

を加え、本則と頌に著語という寸評を加えて『従容庵録』を作り、後に略して『従容録』となったもので、曹洞の禪風の人が多く用いています。最初に示した名句ですが、

前住も感銘をうけた句のようで、退董記念に檀信徒の皆様が自筆の色紙をお配りしましたが、この句を多く書かれておりました。花を買いにいきますと、

花の値段・形・色もさまざまです。赤い花は白い花よりも優れているのでしょうか、黄色の花は紫の花よりも劣っているのでしょうか、大きい花は小さい花よりも優れているのでしょうか…。人間が勝手に好き嫌いで判断しているだけです。値段も珍しいとか、人気があるとかで、勝手に差をつけているだけです。花はそれぞれに価値判断のない世界に天地一杯春を現しているのです。

人間社会はどうでしょうか。男・女、健康・病弱、背が高い・低い、勉強が出来る・出来ない、若い・老、金持ち・貧しい等、こつちが良いやいやと、また、こういう人生が有意義とか、他と比較し値段表をつけ、自分自身苦しんだり、子供や他人をも気付かずに傷付けていることが多々あるのではないのでしょうか。

最近の報道では、思いも及ばない事件が多発しております。人間に、人生に値段表をつける社会が要因の一つになっていないでしょうか。花に色々の形や色があるように、人間も色々の人がいて当然です。それぞれの人が、差別なくそれぞれの人生をおくることが大事で、総ての人が安心の日々を生きることが出来るのではないのでしょうか。

食事は合掌して「いただきます」

読者からの

便り

安善寺の思い出

檀信徒の皆さまからご応募をいただき、ありがとうございます。
ご意見・感想などうれしく拝読しました。皆さまからの声が編集部の方の元気の源になります。
次号も、どうぞたくさんのお便りをお寄せください。

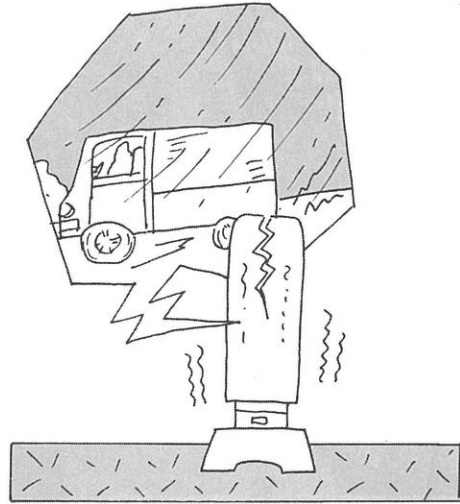
「ご先祖が孫娘を守ってくれたのです」

平成六年十二月十六日、孫娘が交通事故にあったと電話があり、大変驚きました。

よく話を聞くと「みぞれ降る中の下校途中に大型トラックにひきつられ、救急車で病院にはこぼれたけれど、かすり傷程度ですんだ」とのこと。着ていたアノラックとズボンが、原型をとどめないほどボロボロに破れていたのを見て、ゾッとしました。

孫娘の持っていた赤い傘に運転手が気付き、急ブレーキをかけたので助かったが、もう少し遅ければ即死だったと、警察の方も言っておりまして。

偶然にも、その日は先代と先々代の命日でしたので、仏壇に無事の報告と、守っていただいたお礼に手を合わせました。

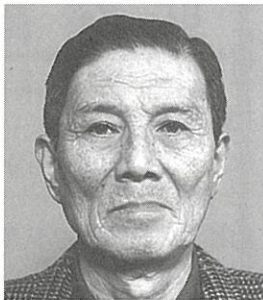


◎菊田サヨ子 (長岡市蔵王)

年が明け、元旦に安善寺様にお年始に伺い、位牌堂でお参りしたとき、今まで傷一つなかったお位牌が真

「毎朝のお勤めを 教えていただきました」

◎笠井 義一 (長岡市山田町)



私はいたって凝り性である。当時、川釣りに凝っており、同好会の面々と朝四時

に起き、浦村の池で大会を行なった。

釣果も思うようにゆかず、ヤキモキしていた午前九時頃、土手の上で小生の名前を呼ぶ声が聞こえる。かけ上がると父の急死の報である。

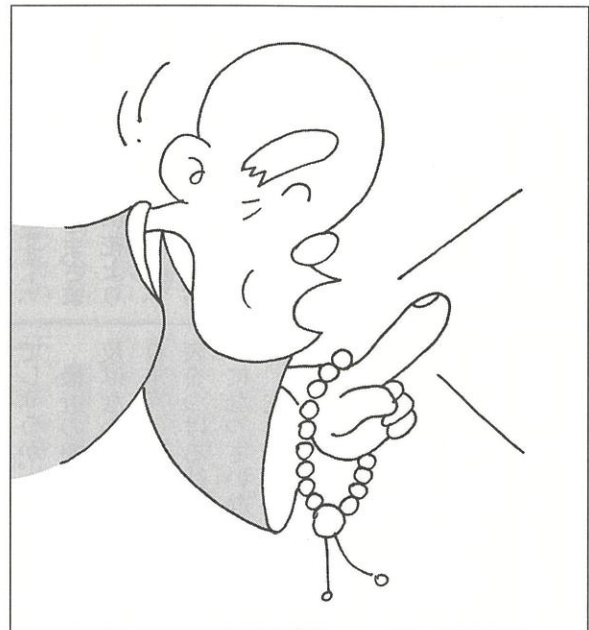
親の死に目に会われないのは親不孝者とよくいわれる。誠にその通りである。ようやくのことであろうにか葬儀をすませた。

その後、東京に住む親戚の法要で廿六世見龍大和尚様と会席し、十二分にお酒をいただき帰路につく。その

折り、車中にて和尚様にお話を聞きました。

「いまだにお勤めの身では時間が思うようにとれず、朝のお勤めは無理と思う。毎朝のお灯明、線香をあげたら少なくとも『延命十句』観音経と火防稲荷様の叱咤(たが)尼尊(にそん)天真言(てんしんごん)を唱えたら気がすむのではないか」と話されました。それ以後、在宅の時は欠かさず唱えております。

ヒザを傷めて正座が苦しいこの頃、よいお教えをいただいたので感謝しております。

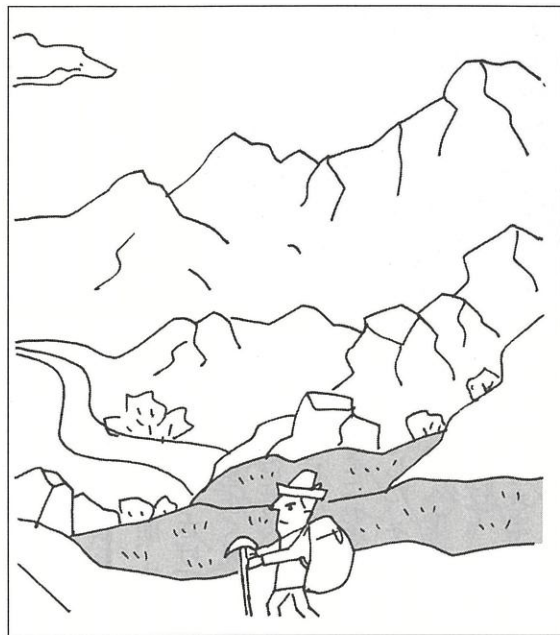
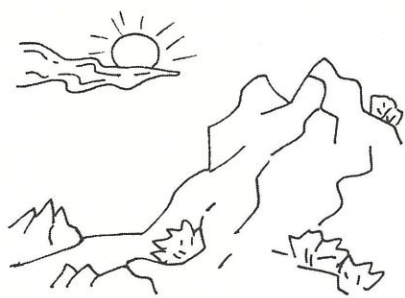


「先住様は長岡の数少ない登山家でした」

◎室賀輝男（長岡市学校町）

昭和二十年八月一日の空襲で、焦土と化した長岡駅前立つと、長生橋を背景に商都を象徴するように、焼け残った痛々しい土蔵群と、本町通を頂点に宮内から城岡まで、南北に緩やかな丘陵となる市街地が一望にでき、長岡の地名の由来が確認出来たものです。

荒涼とした焼け跡の中に水道タンクと、大きな樺の杜が砂漠のオアシスのように眺められ、戦災直後の長岡を知る人の記憶に残る風景でした。



この杜が安善寺の境内で、よくも災禍から免れたものだ、不思議に思われたものでした。後で、雨、霰のように降り注ぐ焼夷弾から、本堂や境内地の防火にあたられた先住様の必死の防火活動のお話を伺い、身の危険も省みず寺院を護られた尊い心意気に感動したものです。

住む家に事欠く戦後にできた山岳会は集会所がな

安善寺様は、私が育った家の近くで、見なれた懐かしいお寺です。昔の神田通りは賑やかな

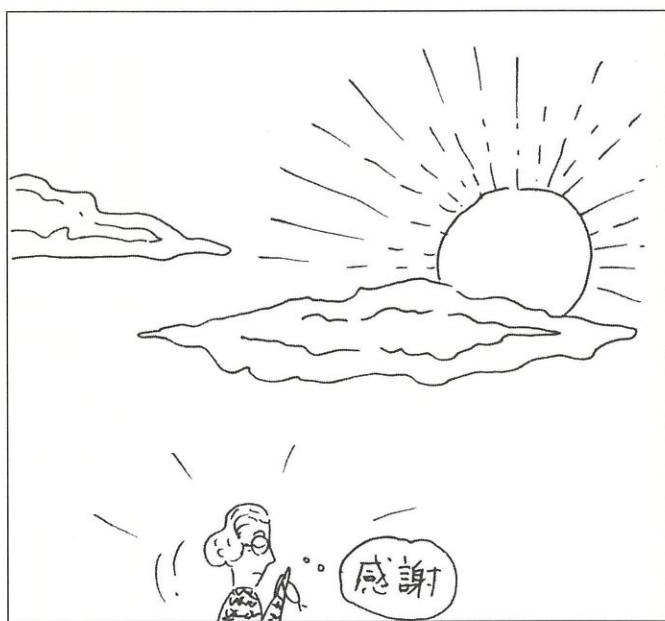
「空襲の焼け跡にお寺の屋根が見えたときの感動は忘れられません」

◎小林竹子（長岡市四郎丸）

数少ない登山家であられたことを初めて知ったのもこの頃でした。思わず座り直して先人のお話を聞いたことを記憶しております。

以来、若い修行時代の困難な登山のお話を幾度かお聞きし、戦後の開発整備が進んでいる山の様子を、懐かしそうに耳を傾けておられたお姿が昨日のように思い出されます。

ご高齢にしてなおもお元気の源泉や、戦火に敢然として寺院を守られた氣力が、この登山を通して培われたものであろうかと、秘かに想いをいたし、無縁、無力、一見の山岳会に心よく会場をお貸しいただいた、先住見龍大和尚様の懐の深さと、徳を偲ぶ想い出です。



商店街で、買い物や子供達の遊び場でもありました。縁あって、小林家の人になつたら、嫁ぎ先が安善寺様の檀家であったことで、仏の因縁を感じました。

亡くなった舅も先代方丈様に、世話人として親しくしていたとき、私も行事には

「お寺の大改修には檀信徒の皆様から

たくさんのご寄附を賜りました」

◎太刀川進之介（長岡市水道町）



長い歴史を経て、戦火もまぬがれた本堂でしたが、傾き、位牌堂と観音堂は風雪による傷みが激しく、危険に



なつたので、平成四年暮れに方丈様を中心に、総代世話人会で修理改修案の検討を重ねて実施を決定。設計と予算、募金方法などを審議しながら、平成五年春に着工しました。

約一年を経た平成六年二月、ついに本堂の大改修、開山堂、位牌堂と玄関棟の新築、庫裡の廊下修理と、工

事が完了。

檀信徒の皆様から、多額の浄財をご寄附賜わったおかげと、深く感謝しております。

その後、落慶法要が盛大に執り行われ、祝宴では、私どもの心の依り処としての安善寺の新たな歩みを喜び合ったことが思い出されます。

三十年くらい前、祖母が小さな袋をぶらさげて出かけて行く姿をよく見かけました。何処に行くのか分かりませんでした。

母に聞くと「お寺だよ」という返事でした。それから十年位経つと、今度は母がカバンをぶらさげて、いそいそと出かけて行きます。あゝ

「祖母と母の手提げ袋の

中身はお数珠でした」

◎村田昌子（長岡市東坂之上）

お寺に行くんだなあと思いつつながら見送りました。

祖母の小さな袋、母のカバンの中身は、ご数珠だったのだと、お寺参りのお役目が来た今、やっと分かりました。なかなかお参りに行けません。その時が来たら袋をぶらさげて、出かけて行きたいと思っています。それまでは、毎日の出来事をご先祖様に報告しながら、仏壇に手を合わせております。



「精進料理」は健康の源です

編集部・安藤

仏教の食事に「精進料理」があります。季刊誌でも、お寺のマリ子奥さんが折々の精進料理の作りかたを掲載されていますが、これほどでも栄養価があつて、体にいい食事なのです。

仏教の高僧の方々は概して長生きされています。たとえば開祖のお釈迦さまは、あの時代に八十歳まで長生きされました。そのわけは仏教の食事にあつたのです。

そういえば、昔はアトピーも糖尿病も花粉症もなかったですね。食事のバランスが体によかった。それにひきかえ今では、①肉をたくさん摂って、②油分もたくさん、③おまけに糖分たっぷり、体によくない食事をしつかり摂って、体をどんどん悪くしています。

食事は、健康の根源です。体によい食事をきちんと摂りましょう。体に良い食事は三つの基本があります。

- ①根菜を多く摂る。
- ②魚を多く摂る。
- ③酢のものを多く摂る。

また道元禅師様は、食事についていろいろなことを述べておられます。

禅の道場における食事係り（典座）の心得を述べた『典座教訓』、食事の作法を述べた『赴粥飯法』など、食事に並々ならぬ関心を寄せておられたようです。

曹洞宗では食事の際に唱える『五観の偈』があります。示唆に富んだ内容ですので、欄外に平たい言葉に言い換えてご紹介いたします。

龍弘流
読者とQ&A

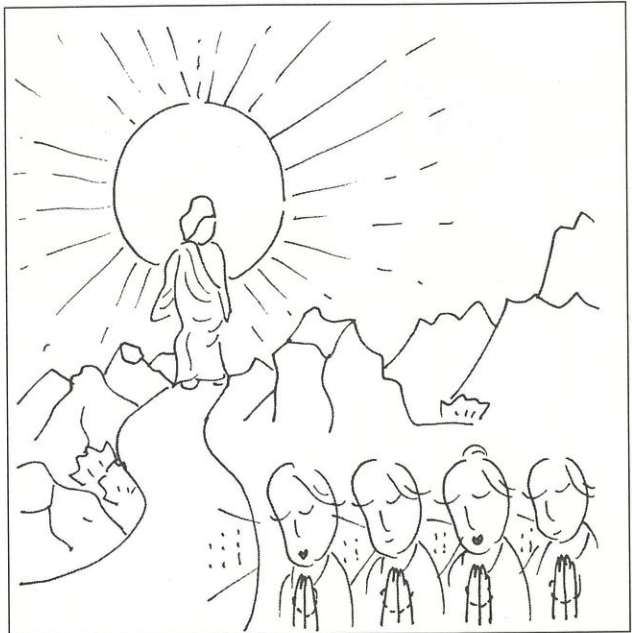
Q

仏教には大乘仏教と小乗仏教があるときいておりますが、どう違うのでしょうか？ また「大乘経」とはどんなお経ですか？

A

釈迦滅後百年のころに、仏の教説や戒律の解釈の相違から、仏教教団は保守的な上座部と進歩的な大衆部に分かれ、さらに仏滅後二百年から三百年にいたる間に十八または二十部派に再分裂しました。

これらは部派仏教といわれ、内容的には小乗仏教と称されるもので、出家して修行で悟りを得るために、一般大衆の救済よりも、むしろ寺院に閉じこもって難解な教理の研究に明け暮れ、自己一人の修養完成を目指すようになっていきました。やがてそのような風潮に反発が起こり、紀元前後から、自分一人の悟り(小



乗)のためではなく、人々を救う巨大な乗り物(大乘)のような仏教ということ、在家仏教信者の人々と、革新派の部派の僧たちによって団体が各地に成立しました。彼らは自分たちをボーディサットヴァ(菩提薩塔、略して菩薩)とよび、自分たちすべては仏になりうるのであるから、菩薩と称すべきだと確信して用いはじめました。最初期の菩薩の仲間、仏塔を礼拝することのみにとどまりましたが、新しい仏教運動を起こした人々の中の

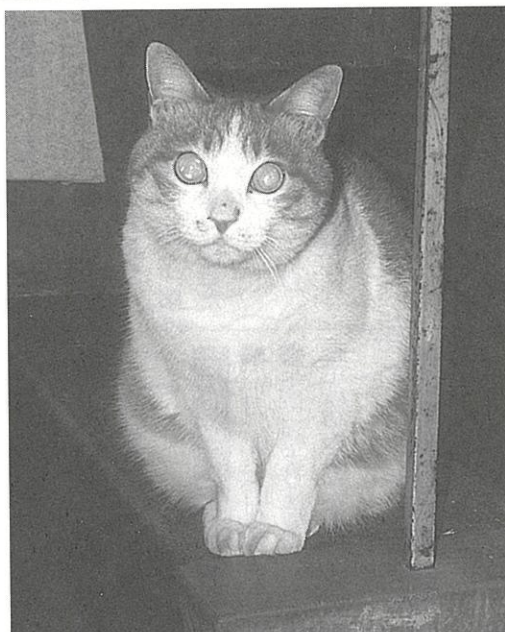
さらに進歩的な者たちが、自らの主張するところを、真の仏説なりと称して大乘経が作られました。初期には『般若経』が紀元前後に成立し、ついで『法華経』『維摩経』『華嚴経』『無量寿経』などが現れ、中期には『解深密経』『如来蔵経』『勝鬘経』『大乘涅槃経』『楞伽経』などが現れ、後期には『大日経』『金剛頂経』などの密教関係の経や儀軌が現れ、以上三期にわたる大乘諸経論は、それが現れる度に、中国に輸入翻訳されました。

ペコ大蔵日記

実は私、めす猫なんです

近藤弘子代筆

季刊六号で「私の名前はペコ大蔵」とタイトルがついていましたので、私のことを雄猫と誤っている人が多いようです。でも私は真正銘の雌猫なのです。愛くるしい瞳を見れば解ると思いますが…。猫は昔から高い場所を好



小乗は声聞乗ともいい、小乗声聞乗が、四諦八正道を修して阿羅漢となることを理想とするのに対して、大乘菩薩乗は、六波羅密を修して成仏することを目的として、利他の誓願を発して、自未得度先度他(自分が仏果を得て救われるまえに、まず他の人々が救われるようにする)という、菩薩行のあり方を端的に示した語句)の心を引き起すものであります。日本中の人が菩薩行の生活でありたいものです。

むと言われているように、私がいともテレビの上とか、積んである座布団の上へ上がっていたものですから、お寺のお姉ちゃんが「ペコ隊長」と呼んでいたのがいつの間にか「大蔵」になってしまったのです。私としては少し不満なですけれど…。昔の童謡に「犬は喜び庭かけ廻り、猫は炬燵で丸くなる」と唄われたくらい寒がりですが、現代のファンヒータ

は、どうも苦手なのです。いつも入ろうとすると、お母さんに「その部屋はダメよ」と言われる部屋が少し開いていたので覗いてみたら、私の好きな石油ストーブがついていてのをみつめました。恐る恐る入って寝ているうちにお母さんも諦めたようです。私の粘り勝ちでした。おかげで毎日心地よい日を過ごしております。

覚せい剤の恐ろしさ

◎小林善秋

近頃、新聞、テレビ、ラジオなどのマスコミで、覚せい剤やシンナーなど、薬物乱用防止のキャンペーンをよく見聞します。

それというのも、薬物を乱用する青少年が後を絶たないばかりか、反対に増える一方にあるからです。

三年前、私も二年間に亘って、長岡保健所管内の薬物防止協議会の一員として、

いろいろな啓蒙活動に参加させていただいた経験がありましたから、なおのこと薬物の恐ろしさを知っています。ですから、もつともっと皆さま関心を持っていただきたいと願っている一人です。

長岡市でも年一回、保健所を中心にして、いろいろな団体のご協力を得て「ダメ！ゼツタイ！」をスロ

ーガンに、薬物乱用防止の啓蒙活動を行っています。

私の所属している長岡着柴ライオンズクラブでも、年に数回ですが、この啓蒙活動を行っております。皆さまざま機会がありましたら、ぜひ参加してください。

薬物防止協議会で、薬物の恐ろしさを県警の方から聞かされたときは、ほんとうにびつくりしました。

内容は書ききれないほどたくさんあるのですが、恐ろしい体験談を綴った手記が多数出版されています。機会がありましたら、ぜひ読んでみてください。長岡新聞の二月二十二日号にも掲載されておりました。

また、最近では地方から新幹線を使って上京して、上野駅界隈で外国人の売人から薬物を手し、トンボ帰りでこっそり持ち帰るといふ怖い話も耳にします。こんなに簡単に入手でき

るのですから、もつと薬物の取締りを厳しくしていただきたいものと切望しています。

総理大臣を筆頭にして、国を挙げて真剣に考え行動している全国組織の薬物防止協議会ですが、

「薬物は国を滅ぼす」この言葉を、しっかりと受け止めて、メンバーのみならず、一人ひとりが周囲に目を配って、啓蒙を図っていききたいものです。

春の訪れとともにお寺の行事も多くなります。皆様万障お繰り合わせのうえご参加ください。

涅槃会
●三月十五日(水)
●午前十一時より法要・法話・お斎・団子まき
お釈迦様の入滅された日

安善寺 春の行事



で、団子まきで親しまれている法要です。お釈迦様の説かれた教えを心して、限りあるいのちを尊く生きたいものです。

- 三月十七日(金) 春期彼岸入り法会
- 午後一時より歎仏会・佐藤正樹師の法話、終わって茶話会。歎仏会とは、道場を浄め、仏の徳・仏の名を賛歎し、仏に懺悔し、仏法僧の三宝に帰依する法要です。
- 三月二十日(月) 春期彼岸お中日法会
- 午後一時より法要、終わって住職の法話、その後茶話会
- 春期彼岸明け法会
- 三月二十三日(木) 春期彼岸明け法会
- 午後一時より法要、終わって佐藤正樹師の法話、その後茶話会
- 花祭り(釈尊降誕会)
- 五月五日(金) 大手通の歩行者天国でお練り・降誕会・稚児お育て法要が勤まります。(仏教全徳)
- 大般若法会
- 六月十二日(月) 十時半 追って連絡いたします。

私たちの里子を訪ねて… ネパール紀行その二——近藤マリ子

ネパールは世界最高峰のエベレスト山を有し、日本の国土の三分の一という小さな独立王国で、人口は約二千

ル、パタンなどの街々に建ち並んでいることでも窺い知ることが出来ます。古くして立派な彫刻が施さ



万人でとても貧しい国です。宗教は国王の信仰するヒンズー教が半数以上を占め、仏教、ラマ教など国民はみな信仰心が厚く、十七、八世紀に栄えた王朝文化の名残りの寺院建築が、首都カトマンドウをはじめバクタプー

れた街並みは、歩く先々で博物館に出会うと言っても過言ではないくらい。修復のされないまま、今にも崩れてきそうな建物に人が住んだり、観光客が出入りしたりしているのです。そんな街並みを通り抜け

狭い路に入ると途端にセーターの袖を伸ばして口に当て爪先で歩かなければならぬくらい、いたる所に牛の糞があり、あちこちで犬がグツタリと横たわり、生ゴミが散乱していたり…。

そんな所に私たちの里子の家がありました。家がある子だけではなく、尋ねた子(その子の場合、学校へ行ったのですが)の中にはホームレスだという子もいました。会う前にカジさんの家で、日本から持ってきたおみやげ(文房具、うちわ、紙風船など)を十五名分の袋(日本ではごく当たり前に使っているスーパーの袋も、この国では調達するのが大変)に分け、初めて会う子に胸をと

きめかせながら、カジさんに「最初の子は、私の家の隣です」と言われ出発しました。とつづく隣は通り過ぎていくのになか／＼家に入ろうとしない彼に「隣でしょ？」



と聞いてみますと「日本ではどう言いますか」「ネパールでは少し離れているのは一時間くらい歩きます」とのやりとりの末、二十分くらい歩いてようやく里子の家へ着きました。

テストの最中で、高校一年生の男の子でしたが、友人数名と床に教科書を広げて勉強中でした。私たちが行くくと、はにかみながらもとても喜んで迎えてくれました。お父さんは亡くなったことでしたが、言葉は通じなくともお母さんの様子

から、私たちを心の底から歓迎してくれているのが痛いほどわかり、以前私が出した手紙のことに触れ、私の子供達のことにもカジさんを通して問いかけてもくれました。

一人でも多くの子供達に会うために、驚くくらい一生懸命歩きました。どこへ行っても本当に暖かく迎えてくれました。歩いているとあちこちで子供達が遊んでいる楽しそうな声が聞こえてくるのです。すれ違い際に「ナマステ」(ネパール語

でこんにちは)と言うと返事が返ってくるのです。子供達の目は皆とてもきれいで、生き／＼としていました。傍らで大人が日向ぼっこをしていましたが、遠い昔どこかで見えた光景です。日本が失ってきた貴重なものがこの国にはしっかりと残っているように思われました。日本にいらるとこんなに歩くことなんてないのに、不思議と爽快感だけが残りました。(次号へ続く)

お別れ

(平成十一年十二月末、十二年二月二十日)

矢嶋八代子様 十二月三十日寂

● 神奈川県葉山町

高野トメ様 二月二日寂

● 長岡市東新町

長沼 淑様 二月十日寂

● 三島郡和島村

● ご冥福をお祈り申し上げます。

『もったいない』

◎高橋 潔

私の中学生の頃、給食が普及している現在と違い、当時の中学校ではまだ給食がなく、お昼といえば弁当が当たり前でした。

冬は冷たくなってしまふのをダルマストーブの脇で暖めておくため、おかずのにおいが教室中に漂っていたことを思い出される方も多いかと思えます。

弁当の蓋を開けると、母親が作ってくれたおかずと、少し湯気が立ち上がるご飯が目の前に現れます。

さて、さっそく昼飯だと、箸を手にしてなのですが、ま

ずすることは、弁当の蓋についたご飯粒を食べてからと、一粒ずつ食べ始めたとき、隣から「高橋君で蓋の粒も食べるんだ」と言う声がかかりました。農家の人が丹精込めて作ったものだから、一粒だつて大切にしないか、と言われてきたのに「なにかおかしなことを私はしているの?」、これが素朴の疑問でした。一粒ずつ食べるのが奇異な行動みたいなの二ユアンスを感じました。

集記事がありました。食べ物でいえば、先ほどの弁当の蓋のご飯粒とは言わないまでも、世の中食べ残して捨ててしまうものがものすごくいっぱいあります。コンビニエンスストアーでは、一定の時間が経過したものは捨てることになっているそうです。数日も経ってしまっているものならいざ知らず、数時間しか経っていないものがどンドン捨てられてゆく。この地球上では、まだ飢餓に苦しんでいる人もいるというのに、何かがおかしい。

日本は豊かになったんだというのかもしれない。多量物が多くあるからといって、それをもって豊かだと言えるのかな。物が豊かになったがゆえに、それと引き換えなのかもしれない。失つてきたものも多量あるのではないか。そんなことを「もったいない」が死語となつてきたという新聞記事を読みながら感じさせられました。

いざ自分のことはと考えてみても、知らず知らずのうちに「もったいない」ことをしています。毎日、仏壇にお供えを上げながら、手を合わせながら、家族みんなが「もったいない」という言葉を思い出し、伝え、残してゆかなければと思う今日この頃です。

世相は、右を見ても、左を見ても真暗闇。テレビのワイドショー、週刊誌等々、話題に事欠かないようであります。さて、回を重ねまして、季刊紙も第九号。二月八日午後六時三十分より、安善寺に於きまして、編集会議。いつものように編集長の号令のもとに紙面作り。今回は、事前に「安善寺の思い出」ということで原稿が集まつており、スムーズに会議は進行。編集長曰く「今日日は早く終わつて、ありがたいな」と一言。「それとどうだろう、次回の新聞発送に一枚つつ原稿用紙を同封し、一人でも多くの方々から、紙面に参加してもらおうじゃないか」。異口同音に全員賛成。



投稿 歓迎

夏号のテーマ
「心に残ったあのとき」
締切り 5月31日

7月発刊の夏号も檀信徒の皆様が主役です。原稿をお送りください。お手紙・ファックス・Eメールのいずれでも結構です。お待ちいたしております。

〒940-0052
長岡市神田町1-4-10
安善寺 近藤 龍弘
FAX.0258-32-2870
Eメールアドレス
vc2r-kndu@asahi-net.or.jp

情報発信の姿勢は、またある面におきましては、情報受信という側面も持っているはずだと思われまふ。紙面が一人よがりの自己満足的なものにならないよう、多数の投稿、ご意見、ご批判、切にお待ち申し上げております。

佐藤正樹 合掌

第十号、夏号は平成十二年七月六日(木)発刊予定です。